

進められている。

Tongaliの起業家育成プログラムは、大きく学生向けと教職員向けに分けられる。

河合 修治（かわい しゅうじ） 政策研究事業本部研究開発第2部（名古屋）主任研究員



教職員向けプログラムも、STARTで実施するGAPファンド（※）プログラムを名古屋大学が主幹して行っている。同プログラムにエントリーした全てのチームは、仮説検証プログラムを受講し、ビジネスモデルのブラッシュアップをした上で、審査に臨む。

人材や資金などのリソース不足が課題としてあげられる。リソース不足を補ったために、地域一体となった取り組みが進んできたといえるが、さらなる発展を目指す上では、指導・支援する人材の育成・強化が求められるとともに、事業化に必要な資金の提供が求められる。国立大学法人法の改正に伴い、本年4月より、名古屋大学ではスタートアップへの投資が可能となったことから、このような機会を生かした一層の取り組みが期待される。

東海エリアにおけるスタートアップ・エコシステム形成に向けた特徴的な取り組みの一つとして、大学連携による起業家（アントレプレナー）育成プラットフォーム「Tongali（トンガリ）」があげられる。

Tongaliは、2015年に名古屋

東海×スタートアップ(2)

充実が図られる起業家教育

屋大学をはじめとした東海エリアの5大学による起業家育成プロジェクトからスタートし、現在では、東海エリアの17大学が参画するまでとなっている。

科学技術振興機構の「大学発新産業創出プログラム（START）」にTongaliが採択され、起業家育成プログラムの一層の充実を図るべく取り組みが

学生が参加している。このプログラムは大学の単位認定の対象とならないものの、年々参加学生は増えており、昨年度の「アイデアピッチコンテスト」には40チーム、「ビジネスプランコンテスト」には50チーム

が参加している。「ビジネスプランコンテスト」の上位入賞者には、メンターとの壁打ちによるビジネスプランのブラッシュアップや海外研修プログラムなど、より実践的なプログラムが用意され、実際の起業につながった事例もみられる。

※GAPファンド 大学の基礎研究と事業化の間にあるギャップ（空白、溝）を埋めるための試作開発などを進めるための資金（毎週木曜日に掲載）

